

「拠点リスク確認」の印刷資料（見本）

会社の拠点の住所から、揺れ・浸水・土砂災害・断水などの想定を並べて、社内説明用の資料にする無料の道具です

この資料について

防災経営の「拠点リスク確認」で、見本の会社（架空の製造業）の3拠点を調べ、「資料を印刷する」で出力したものです。拠点は大和市の本社、海老名市の倉庫、大和市の第2工場で、見本として置いた位置です。実在の企業とは関係ありません。2026年10月1日に作成しました。

ページの構成

2	表紙: 3拠点の位置と、拠点ごとの主な想定の一覧(色で注意の度合いを示す)
3	拠点を比べる: 30年以内に強い揺れに見舞われる確率、断水が解消するまでの日数、地盤の揺れやすさ
4～6	拠点ごと: 想定を重ねた地図、想定ごとの小さな地図、洪水の想定、その拠点で確かめること
7～10	対策の手引き: 基準を超える項目(見本では浸水・揺れ・断水・土砂災害)ごとの事前・事後の対策と、申請書への書き方の例
11	数字の読み方: 浸水の深さと震度を、建物や体感に置き換える
12	数値をBCPに落とし込む: 備蓄の量の計算、資料の使い方、使ったデータ
13～14	付録: 項目ごとの一覧表

使っているデータ

- 揺れの確率・地盤: 防災科学技術研究所 J-SHIS(確率論的地震動予測地図 2024年版)
- 浸水・土砂災害の区域: ハザードマップポータルサイト(国土交通省・国土地理院)。洪水は計画規模・浸水継続時間・家屋倒壊等氾濫想定区域も
- 断水の日数・液状化: 神奈川県「地震被害想定調査(令和7年3月)」
- 冠水注意箇所: 国(関東地方整備局)と県内の市町村の資料を当サイトで突き合わせたもの
- 背景の地図: 地理院タイル(淡色地図)

出典の詳細は12ページと各ページに載せています。国や自治体の判定ではありません。

自社の拠点で作るには

<https://bousai-keiei.com/check/>

- 本社・工場・倉庫など、最大5か所の住所を入れる
- 無料・登録なし。入力した住所は当サイトのサーバーに送らず、保存もしません(位置を調べるときだけ、国土地理院の住所検索を使います)
- 結果は「リスクファイナンス判断シート」と「事業継続力強化計画 下書きシート」に引き継ぎます

記事でのご利用

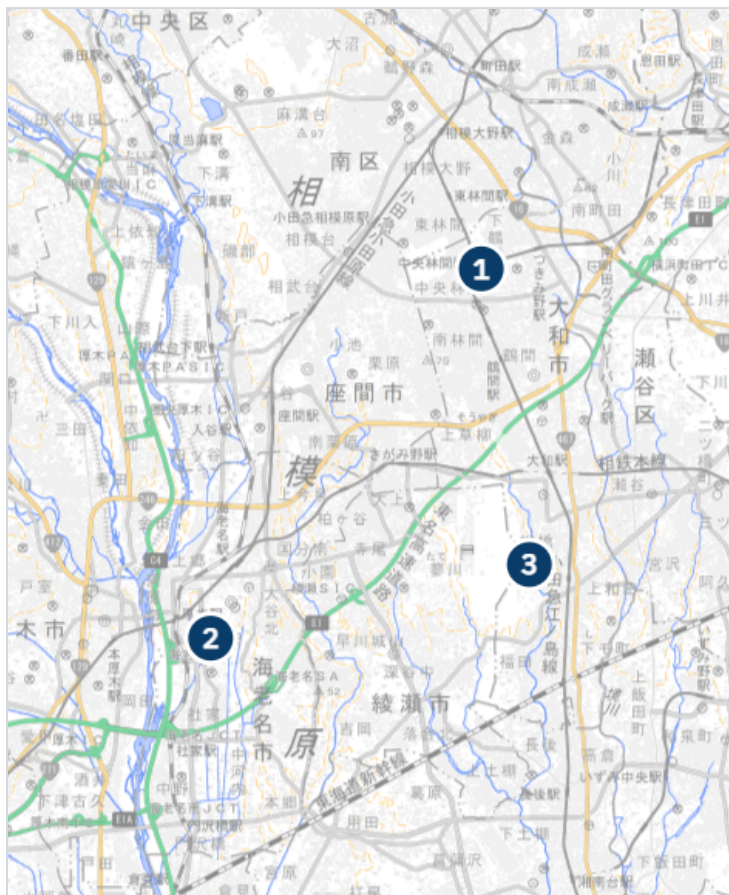
- この資料の画面は、記事でお使いいただけます。「防災経営(株式会社キール)」と出典を添えてください
- 地図を含むページは「地図: 地理院タイル(淡色地図)」にハザードマップポータルサイトの想定を重ねて作成」と添えてください
- 拠点と数値は見本です。特定の地域の危険を示すものとしてではなく、道具の使い方の例としてお扱いください

お問い合わせ

株式会社キール 防災経営 担当(真下)
電話 046-212-2364(平日9時～18時) メール bousai-keiei@keel-ins.co.jp

会社の拠点の自然災害リスク

3か所の拠点 | 2026年10月1日作成



登録した拠点の位置(地理院タイル(淡色地図))

拠点ごとの主な想定

	揺れ 30年の確率	液状化 県の想定	洪水 浸水の深さ	内水 浸水の深さ	津波 浸水の深さ	高潮 浸水の深さ	土砂災害 区域	冠水注意 箇所 500m以内	断水 長いほうの 日数
1 本社 大和市	6強 13% 6弱 56%	対象外 ランクなし	なし	低位地帯 参考 約 3.1m	なし	なし	なし	なし	29日 大正型
2 倉庫 海老名市	6強 31% 6弱 79%	対象外 ランクなし	0.5~ 3m	配信なし 市の地図 で確認	なし	なし	なし	1か所	31日 大正型
3 第2工場 大和市	6強 12% 6弱 53%	ランク1 4段階	なし	配信なし 市の地図 で確認	なし	なし	特別警戒 区域 急傾斜地 の崩壊	なし	29日 大正型

赤 特に注意が必要 黄 注意が必要 淡 浅い浸水など 灰 この項目の想定なし(起きないということではありません)
白 数値(色の区分なし)

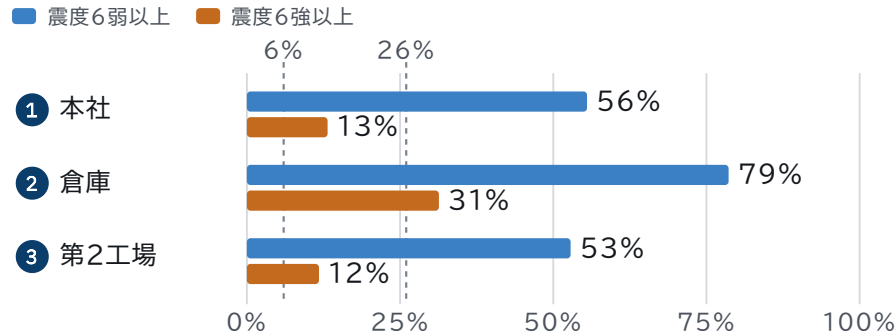
揺れは震度6強以上の確率。J-SHIS の地図のいちばん上の区分(26%以上)を黄にしています。液状化は県の想定(4段階)で、ランク4を赤、ランク3を黄にしています。断水は県の地震被害想定(都心南部直下地震・大正型関東地震)の市区町村の値のうち、長いほうの日数です。

公的機関が公開している地図・データから、拠点ごとの自然災害の想定をまとめた下調べの資料です。

揺れ・断水・地盤を並べて見る

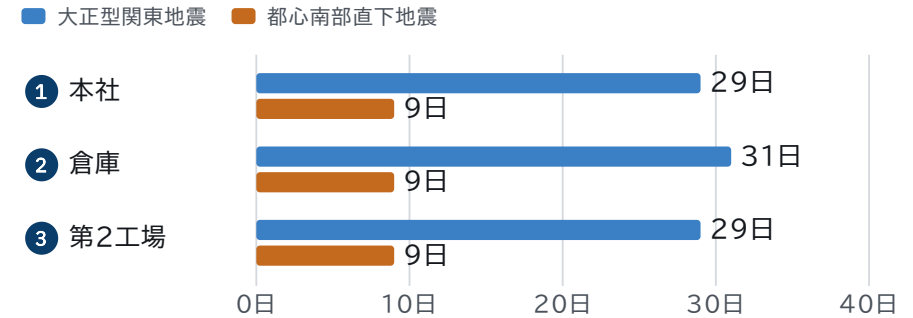
震度6強以上の確率がいちばん高いのは「倉庫」(31%)。地盤の増幅率がいちばん大きいのは「倉庫」(2.07)。浸水の想定がある拠点は1か所(倉庫)。

今後30年に強い揺れに見舞われる確率



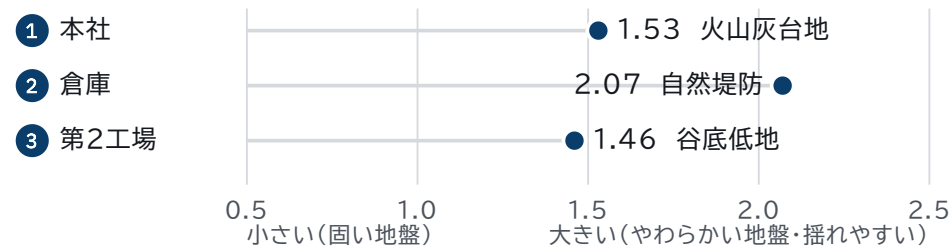
J-SHIS(防災科学技術研究所)確率論的地震動予測地図 2024年版・平均ケース。点線は J-SHIS の地図の色の区分の境目(6%・26%)。

断水の解消までの日数(県の想定)



神奈川県 地震被害想定調査(令和7年3月)。拠点のある市区町村の値。

地盤の揺れやすさ(表層地盤増幅率)



J-SHIS 表層地盤(250mの区画)。数値が大きいほど地盤がやわらかく、揺れやすくなります。ほかの条件が同じなら、2.4の地点は1.2の地点に比べて揺れの最大の速さが2倍になると考えられます。



洪水 0.5m未満 0.5～3m 土砂災害 警戒区域(急傾斜地の崩壊) ① 拠点 半径500m 冠水注意箇所
 地理院タイル(淡色地図)にハザードマップポータルサイトの想定を重ねて作成



洪水



内水
地図の配信なし



土砂災害



津波
この範囲に想定なし



高潮
この範囲に想定なし

震度6強以上の揺れ(30年の確率)
13%
 震度6弱以上 56%・地盤の増幅率 1.53
 (火山灰台地)

浸水の想定
なし
 洪水・津波・高潮の地図に色がない(内水は
 地図の配信なし)

土砂災害の区域・盛土造成地
なし
 区域の指定なし。大規模盛土造成地なし

冠水注意箇所(500m以内)
なし
 当サイトで確かめた箇所の中では

断水の解消まで(大正型関東地震)
29日
 都心南部直下地震 9日(大和市)

液状化の危険度(県の想定)
ランク対象外
 液状化の危険度のランクの対象外(県の想
 定)。真下で地震(M6.8)が起きた場合

この拠点で確かめること

- ☐ 県の想定では、大和市の断水の解消まで大正型関東地震で29日、都心南部直下地震で9日。水とトイレの備蓄と給水の受け方の日数の目安にする(神奈川県「地震被害想定調査報告書(令和7年3月)」資料1 市区町村別の被害 p.58～61)
- ☐ この市町村の内水の地図は配信されていない。地形から見ると、周辺より低く水がたまりやすい低位地帯(参考・最大浸水深 約3.1m)にかかる。市町村の内水ハザードマップで区域と深さを確かめる
- ☐ 今後30年に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率が26%以上(J-SHISの地図のいちばん上の区分)。建物の耐震性と、棚・設備の固定を確かめる



洪水 0.5m未満 0.5～3m 3～5m 5～10m
 土砂災害 特別警戒区域(急傾斜地の崩壊) 警戒区域(急傾斜地の崩壊)
 ② 拠点 半径500m 冠水注意箇所
 地理院タイル(淡色地図)にハザードマップポータルサイトの想定を重ねて作成



洪水



内水
地図の配信なし



土砂災害



津波
この範囲に想定なし



高潮
この範囲に想定なし

震度6強以上の揺れ(30年の確率)
31%
 震度6弱以上 79%・地盤の増幅率 2.07
 (自然堤防)

いちばん深い浸水(洪水)
0.5～3m
 1階の天井まで浸水する程度

土砂災害の区域・盛土造成地
なし
 区域の指定なし。大規模盛土造成地なし

冠水注意箇所(500m以内)
1か所
 浸水常襲道路(中新田・永池川の西側)(約460m)

断水の解消まで(大正型関東地震)
31日
 都心南部直下地震 9日(海老名市)

液状化の危険度(県の想定)
ランク対象外
 液状化の危険度のランクの対象外(県の想定)。真下で地震(M6.8)が起きた場合

洪水の想定を重ねて見る

計画規模
 比較的発生頻度の高い雨
なし

想定最大規模
 想定し得る最大規模の雨
0.5～3m

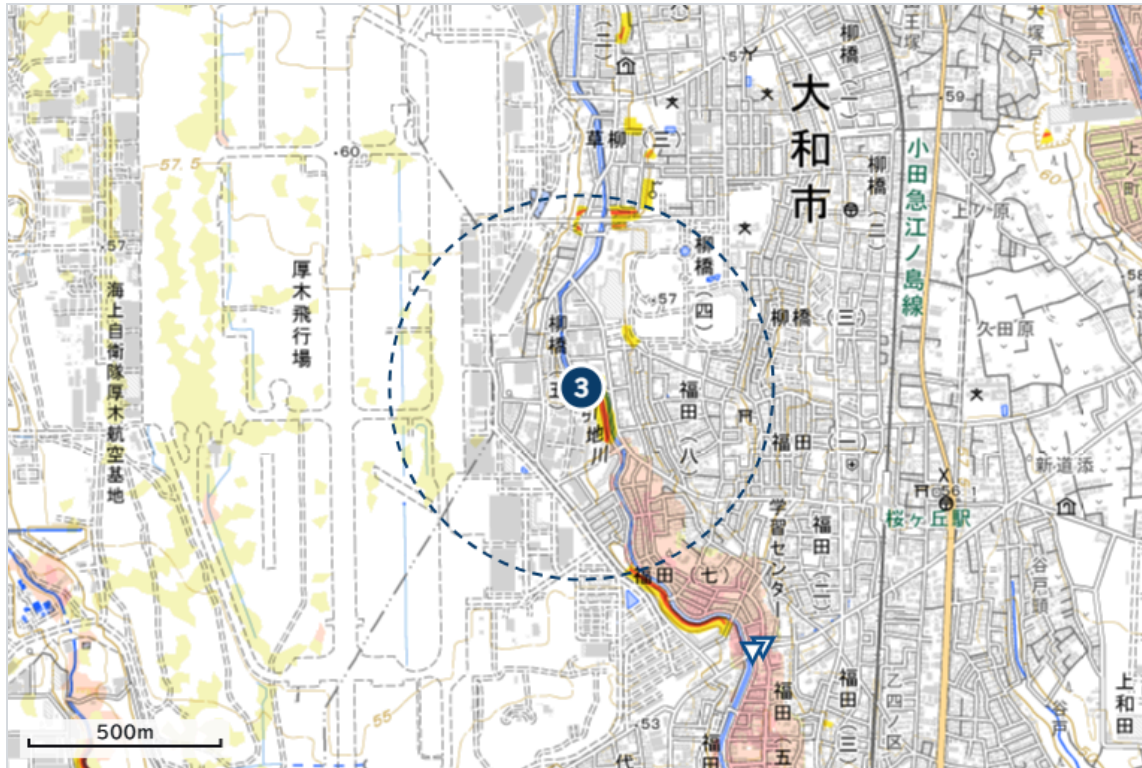
0.5m以上が続く時間
 想定最大規模
12時間未満

家屋倒壊等氾濫想定区域
なし

ハザードマップポータルサイトの配信地図から当サイトが読み取った目安。続く時間は浸水深が0.5mに達してから下回るまでの時間で、浅い浸水はさらに長く残ることがあります。浸水が始まるまでの時間は、どこが決壊するかで大きく違うため、浸水ナビ(国土地理院)で近くの決壊地点を選んで確かめてください。

この拠点で確かめること

- ☐ 浸水の想定(洪水:0.5～3m)がある。出入口の止水の高さと、設備・在庫・書類・サーバーを置く高さを、この深さを前提に決める
- ☐ 0.5m以上の浸水が続く時間は12時間未満(想定最大規模)。その間は屋外への避難が難しく孤立するおそれがある前提で、社内にとどまる人数と備蓄、代わりの場所と取引先への連絡の順番を決める
- ☐ 県の想定では、海老名市の断水の解消まで大正型関東地震で31日、都心南部直下地震で9日。水とトイレの備蓄と給水の受け方の目安にする(神奈川県「地震被害想定調査報告書(令和7年3月)」資料1 市区町村別の被害 p.58～61)
- ☐ 今後30年に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率が26%以上(J-SHISの地図のいちばん上の区分)。建物の耐震性と、棚・設備の固定を確かめる
- ☐ 500m以内に冠水注意箇所が1か所ある。通勤・配送の経路にかからないか確かめ、回避ルートを決めておく



洪水 0.5m未満 0.5～3m 3～5m 5～10m 内水 0.5m未満 0.5～3m 3～5m
 土砂災害 特別警戒区域(急傾斜地の崩壊) 警戒区域(急傾斜地の崩壊) ③ 拠点 半径500m 冠水注意箇所
 地理院タイル(淡色地図)にハザードマップポータルサイトの想定を重ねて作成



洪水



内水



土砂災害

津波
この範囲に想定なし高潮
この範囲に想定なし

震度6強以上の揺れ(30年の確率)

12%

震度6弱以上 53%・地盤の増幅率 1.46
(谷底低地)

浸水の想定

なし

洪水・津波・高潮の地図に色がない(内水は
地図の配信なし)

土砂災害の区域・盛土造成地

特別警戒区域

急傾斜地の崩壊。大規模盛土造成地が約
20m先にある

冠水注意箇所(500m以内)

なし

当サイトで確かめた箇所の中では

断水の解消まで(大正型関東地震)

29日

都心南部直下地震 9日(大和市)

液状化の危険度(県の想定)

ランク1(4段階)

4段階でいちばん低い。真下で地震(M6.8)
が起きた場合

この拠点で確かめること

- ☐ 土砂災害の区域にかかる。大雨の警戒レベルが上がったときに、従業員を早めに帰す・近づかない基準を決める
- ☐ 県の想定では、大和市の断水の解消まで大正型関東地震で29日、都心南部直下地震で9日。水とトイレの備蓄と給水の受け方の日数の目安にする(神奈川県「地震被害想定調査報告書(令和7年3月)」資料1 市区町村別の被害 p.58～61)
- ☐ 今後30年に震度6以上の揺れに見舞われる確率が26%以上(J-SHISの地図のいちばん上の区分)。建物の耐震性と、棚・設備の固定を確かめる

この資料の拠点では

- ② 倉庫 洪水 0.5～3m。計画規模 なし。0.5m以上が続く時間 12時間未満

起きること

- 0.5mは一般的な家屋の1階の床の高さ。流れが緩やかでも0.5m以上では大人でも歩くのが難しく、30cm以上で車の走行が難しくなる
- 浸水が0.5mに達すると屋外への避難が難しくなり、孤立するおそれがある。その時間が長い地域では、ライフラインの途絶などで建物内にとどまり続けることが難しくなる
- 家屋倒壊等氾濫想定区域では、建物内での待避ではなく、立ち退き避難が必要かを判断することが求められる
- 水は正面の出入口だけでなく、階段・エレベーター・地下駐車場の出入口・換気口・設備スペースからも入る
- 集中豪雨で污水管が満水になると、トイレや排水口から逆流することがある

事前にあること

- ☐ 出入口ごとに高さを測り、想定の高さと比べる。止水板で防げる高さか、出入口の改修が要るかが分かる
- ☐ 浸水が始まるまでの時間は、どこが決壊するかで大きく違う。浸水ナビ(国土地理院)で近くの決壊地点を選び、水が届くまでの時間を確かめる
- ☐ 受電設備・分電盤・サーバーは、想定の高さより高い位置に置く。移せないものは、止める手順を決める
- ☐ 止水板・土のうの一覧表(場所・幅・高さ・保管場所)と配置図をつくり、年1回以上の訓練で設置の時間を測る
- ☐ 止水板の購入・設置に補助を出す市がある(川崎市・藤沢市・厚木市・綾瀬市など。交付決定の前の購入は対象外のことが多い)

起きたとき・起きた後

大雨の予報

- ☐ 保管場所と担当者を確認、動かす在庫・車両の順番を決める(段階の分け方は編集部の例)

レベル4の情報

- ☐ 指定の出入口に止水板・土のうを設置し、避難する
- ☐ 水が出入口に迫ったら設置を中止して避難する。浸水が始まってからの移動は大変危険
- ☐ 家屋倒壊等氾濫想定区域の拠点は、上の階にとどまる前提にせず、区域の外へ移る

水が引いた後

- ☐ 建物の安全を確認してから、再開を判断する

事業継続力強化計画に書くなら(例)

災害の想定

確かめたハザードマップの名称と版、所在地と出入口の想定の高さ、0.5m以上が続く時間、計画規模の雨でも浸水するか

初動対応(人命の安全確保)

止水板を設置する時期と、避難を優先して設置を中止する条件

対策 B(モノ)

止水板の設置、重要設備を想定の高さより高い場所へ移す(止水板・防水シャッターは、認定を受けると防災・減災投資促進税制の対象になり得る)

この資料の拠点では

- 1 本社 震度6強以上 13%(今後30年)・地盤の増幅率 1.53
- 2 倉庫 震度6強以上 31%(今後30年)・地盤の増幅率 2.07
- 3 第2工場 震度6強以上 12%(今後30年)・地盤の増幅率 1.46

起きること

- 震度6強では、立っていることができず、固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが多くなる
- 近年の地震では、負傷者の3～5割が屋内の家具類の転倒・落下・移動によるものだった
- 県の想定では、屋内の収容物の落下・転倒による死者は大正型関東地震で980人(冬の平日18時)
- 県の想定では、都心南部直下地震の直後、県内の電話に80～90%の発信規制がかかり、2～3日続くと考えられている

事前にとすること

- ☐ 建物の建築確認の日付を確かめる。昭和56年6月1日より前なら旧耐震基準で、耐震診断の結果を確かめる。借りている建物は所有者に聞く
- ☐ キャビネット・棚は、床や壁の下地にボルトで固定し、上部を連結する
- ☐ 複合機はキャスターをロックし、ベルトなどで壁に固定する
- ☐ 避難通路は幅1.2m以上にし、出入口の周りに倒れやすい物を置かない。物を置かない「安全スペース」を決める
- ☐ 感震ブレーカーで、停電から戻ったときの通電火災を防ぐ

起きたとき・起きた後

揺れている間

- ☐ 緊急地震速報を受けたら、決めておいた安全スペースへ退避する

当日

- ☐ 電話がつかない前提で、電話以外の手段で安否を確かめる。連絡がつかないときに各自がとる行動を決めておく

年に一度

- ☐ 家具・設備の固定を、チェックリストで点検する

事業継続力強化計画に書くなら(例)

影響(ヒト)

営業時間中に被災すると、設備・備品の落下や避難中の転倒でけが人が出る

対策 B(モノ)

棚・機械・什器を固定する。感震ブレーカーを設置する

初動対応(安否確認)

電話以外の安否確認の手段と、連絡がつかないときの行動

出典:気象庁「気象庁震度階級関連解説表」/東京消防庁「家具類の転倒・落下・移動防止対策ハンドブック」(令和6年1月発行)/神奈川県「地震被害想定調査(令和7年3月)」/国土交通省「住宅・建築物の耐震化について」、内閣府「令和8年版 防災白書」。「編集部の提案」は資料にない当サイトの例です。詳しくは 事務所・工場の揺れへの備え(bousai-keiei.com/articles/office-quake-furniture/)

この資料の拠点では

- 1 本社 大和市:大正型関東地震で29日、都心南部直下地震で9日
- 2 倉庫 海老名市:大正型関東地震で31日、都心南部直下地震で9日
- 3 第2工場 大和市:大正型関東地震で29日、都心南部直下地震で9日

起きること

- 水が止まると、飲み水だけでなく、トイレ、手洗い、清掃、設備の冷却や洗浄にも響く
- 県の想定では、都心南部直下地震で県全体の上水道の復旧に33日程度、下水道は40日。下水道の支障が続くと、水道が戻ってもトイレが使えない期間が残る
- 地震の後は、断水していなくても排水管が傷んでいることがある

事前にとすること

- ☐ 3日分は人数から計算する。水は1人1日3リットル、携帯トイレは1人1日5回。県は携帯トイレを最低3日分、可能なら7日分の備蓄を呼びかけている
- ☐ 3日を超える分は「受け取り方」を決める。市の給水拠点の場所、水を運ぶ容器と人、建物の受水槽の有無と容量(編集部の提案)
- ☐ 水を使う工程がある場合は、再開の条件に「給水の再開」を入れる

起きたとき・起きた後

- | | |
|-----|---|
| 当日 | ☐ 建物の点検が済むまで水洗トイレを使わず、携帯トイレに切り替える |
| 1週間 | ☐ 給水の受け取りを当番で回す。水を使わない業務から再開する(編集部の提案) |
| 1か月 | ☐ 下水道の支障が続く間は、トイレの確保を続ける |

事業継続力強化計画に書くなら(例)

影響(モノ)

電気・水道・都市ガス・公共交通機関が長期間止まるおそれがある

対策 B(モノ)

災害の直後から活動する従業員数をもとに、備蓄する物資と量(簡易トイレ、浄水器、飲食料など)を決めて準備する

出典:神奈川県「地震被害想定調査報告書(令和7年3月)」資料1 市区町村別の被害 p.58～61、本編 第3章／内閣府「災害発生時における大規模な帰宅困難者等の発生への対策に関するガイドライン」(令和8年1月)／内閣府「避難所におけるトイレの確保・管理ガイドライン」(令和6年12月改定)、神奈川県「携帯トイレを備蓄しましょう」／中小企業庁「事業継続力強化計画策定の手引き」(令和8年7月17日版)p.10・17。「編集部の提案」は資料にない当サイトの例です。詳しくは 事業所の備蓄の量と中身の決め方(bousai-keiei.com/articles/stockpile-plan/) 都心南部直下地震で想定されるライフラインの支障(bousai-keiei.com/articles/shuto-chokka-lifeline/)

この資料の拠点では

3 第2工場 特別警戒区域(急傾斜地の崩壊)

起きること

- がけ崩れは突然起きる。前兆として、小石がパラパラ落ちる、がけに割れ目ができる、わき水が濁る、地面にひび割れができる、などが挙げられている
- レベル4土砂災害危険警報は、区域の中の人が遅くとも避難を始める段階。レベル5を待ってからでは遅い

事前にあること

- ☐ 斜面(亀裂・浮き石・落石)、擁壁(ひび割れ・傾き・目地の開き)、排水(水抜き穴の詰まり・しみ出し)を、同じ順で点検し、前回との違いを記録する
- ☐ 区域の外の移動先と、移動が危険なときにとどまる部屋(がけから離れた部屋)を決めておく
- ☐ 区域を通る通勤・配送・巡回の経路を洗い出す

起きたとき・起きた後

レベル4の情報

- ☐ 市町村の避難指示を待たずに、区域の外へ移る
- ☐ 区域の外の事業所は、区域を通る移動を始めさせない

前兆に気づいたら

- ☐ 斜面に近づかず、直ちに周りの人と安全な場所へ離れ、市町村役場などに連絡する

事業継続力強化計画に書くなら(例)

初動対応(人命の安全確保)

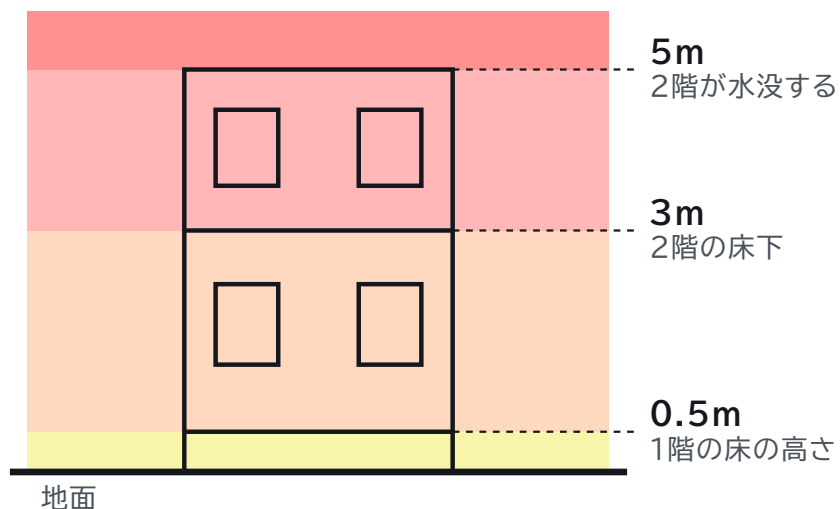
避難を始める基準(レベル4土砂災害危険警報)と、区域の外の移動先

実効性の確保

斜面・擁壁の点検の時期と記録の方法

出典:気象庁「土砂キキクル」、国土交通省「レベル4土砂災害危険警報」／神奈川県「がけ崩れーこんながけが危ないー」「用語の解説」／国土交通省「我が家の擁壁チェックシート(案)」／急傾斜地(がけ地)の点検を行う際のポイント」。「編集部の提案」は資料にない当サイトの例です。詳しくは 土砂災害警戒情報が出たときの事業所の行動(bousai-keiei.com/articles/dosha-keikai-joho-action/) 斜面の近くの事業所で平時に確かめること(bousai-keiei.com/articles/slope-site-inspection/)

浸水の深さの目安



国土交通省「水害ハザードマップ作成の手引き」3.4.1 の浸水の深さの区分の考え方をもとに、当サイトで作図。色は重ねるハザードマップの浸水の深さの凡例。

震度と揺れの状況(人の体感・屋内)

震度5強	震度6弱	震度6強	震度7
大半の人が、物につかまらなと歩くことが難しい。固定していない家具が倒れることがある。	立っていることが困難になる。固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。	立っていることができず、はわないと動くことができない。固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが多くなる。	固定していない家具のほとんどが移動したり倒れたりし、飛ぶこともある。

気象庁「気象庁震度階級関連解説表」から抜粋。

起きる確率と、起きたときの被害の大きさは別の物差しです。

揺れの確率(J-SHIS)は、この地点が今後30年に強い揺れに見舞われる可能性です。断水の日数は、特定の地震が起きたと仮定したときの県の見込みです。確率が低い地震でも、起きたときの被害が大きいことがあります。

数値を、備蓄とBCPに落とし込む

備蓄の量を計算する(3日分の目安)

水 人 × 3リットル × 3日 = リットル

主食 人 × 3食 × 3日 = 食

毛布 人 × 1枚 = 枚

トイレ 人 × 5回 × 3日 = 回分

水・主食・毛布は内閣府「災害発生時における大規模な帰宅困難者等の発生への対策に関するガイドライン」(令和8年1月)。ガイドラインは3日以上以上の備蓄も検討するよう求めています。トイレは内閣府「避難所におけるトイレの確保・管理ガイドライン」(令和6年12月改定)の1日5回。

登録した拠点のうち、県の想定で断水の解消までがいちばん長いのは「倉庫」(海老名市、大正型関東地震)の31日です。3日分を超える間の水とトイレは、給水の受け方とあわせて決めます。

この資料の使い方

- 全体をつかむ**
1枚目の色の一覧で、どの拠点のどの想定に色が付いているかを見る。
- 拠点ごとに確かめる**
拠点のページの地図と「確かめること」を、担当者と一つずつ確かめる。
- 対策を決める**
「対策の手引き」のページ(基準を超える項目だけ付きます)で、事前と事後にすることを決める。
- BCPに写す**
拠点ごとの被害の想定として、数値と出典をそのまま書き写す。

使ったデータ

- 揺れの確率・地盤:防災科学技術研究所 J-SHIS(確率論的地震動予測地図 2024年版・平均ケース、表層地盤)
- 浸水・土砂災害の区域:ハザードマップポータルサイト(国土交通省・国土地理院)の配信地図。地点の区分は地図の色から当サイトが読み取った目安
- 洪水の計画規模・浸水継続時間・家屋倒壊等氾濫想定区域:ハザードマップポータルサイトの配信地図
- 高潮の浸水継続時間・家屋倒壊等氾濫想定区域(氾濫流・越波):神奈川県「高潮浸水想定等のGISデータ」(県オープンデータカタログ、CC BY)をもとに株式会社キール作成。形状は概略で、正式な区域は県の高潮浸水想定区域図で確かめる
- 断水の日数:神奈川県「地震被害想定調査報告書(令和7年3月)」資料1 市区町村別の被害 p.58~61
- 液状化の危険度:神奈川県「地震被害想定調査(令和7年3月)」液状化危険度マップ(地震防災マップ)(250mメッシュ。県内のどこでも真下で地震(M6.8)が起きたと仮定した場合。CC BY 4.0)
- 大規模盛土造成地:国土数値情報(大規模盛土造成地データ 2023年)(国土交通省)をもとに株式会社キール作成(形を簡略化。CC BY 4.0)。直ちに危険性のある盛土造成地を示したものではありません
- 内水:ハザードマップポータルサイトの配信(横須賀市の一部・平塚市・綾瀬市)と、市のオープンデータ(川崎市上下水道局「内水ハザードマップ(浸水想定区域)」CC BY 4.0)。どちらもない市町村は配信なしとし、国土数値情報(低位地帯データ 平成27年度)(国土交通省)を地形から見た参考として添える(この地図の作成にあたっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の基盤地図情報(数値標高モデル)を使用しました)
- 冠水注意箇所:国(関東地方整備局)の一覧と県内の市町村の資料を当サイトで突き合わせたもの
- 背景の地図:地理院タイル(淡色地図)

国や自治体の判定ではありません。所在地の正確な状況は、市区町村のハザードマップで確かめてください。

付録 項目ごとの一覧表

	1 本社	2 倉庫	3 第2工場
所在地	大和市中心林間四丁目付近 大和市の防災情報 35.50681, 139.44636	海老名市中新田付近 海老名市の防災情報 35.43989, 139.38619	大和市柳橋五丁目付近 大和市の防災情報 35.45324, 139.45704
地震			
震度6弱以上の揺れ(今後30年の確率)	56% J-SHISの地図の区分では26%以上がいちばん上。県内の多くの地点が当てはまる	79% J-SHISの地図の区分では26%以上がいちばん上。県内の多くの地点が当てはまる	53% J-SHISの地図の区分では26%以上がいちばん上。県内の多くの地点が当てはまる
震度6強以上の揺れ(今後30年の確率)	13%	31%	12%
地盤の揺れやすさ(表層地盤増幅率)	1.53 火山灰台地	2.07 自然堤防	1.46 谷底低地
液状化の危険度(県の想定)	ランク対象外 液状化の危険度のランクの対象外(県の想定)。県内のどこでも真下で地震(M6.8)が起きたと仮定した場合	ランク対象外 液状化の危険度のランクの対象外(県の想定)。県内のどこでも真下で地震(M6.8)が起きたと仮定した場合	ランク1(4段階) 4段階でいちばん低い。県内のどこでも真下で地震(M6.8)が起きたと仮定した場合
大規模盛土造成地	なし(国土数値情報の範囲では)	なし(国土数値情報の範囲では)	100m以内にある(約20m、谷埋め型) 直ちに危険性のある盛土造成地を示したものではありません(国土交通省)
水害			
洪水(想定最大規模)	浸水の想定なし	 0.5～3m 1階の天井まで浸水する程度	浸水の想定なし
洪水(計画規模)	—	浸水の想定なし	—
洪水:0.5m以上の浸水が続く時間(想定最大規模)	—	 12時間未満	—
家屋倒壊等氾濫想定区域(氾濫流・河岸侵食)	—	区域の指定なし	—
内水(下水道・水路があふれる浸水)	地図の配信なし 市町村の内水ハザードマップで確かめてください 低位地帯(参考・地形から見た目安)にかかる:最大浸水深 約3.1m	地図の配信なし 市町村の内水ハザードマップで確かめてください 低位地帯(参考・地形から見た目安)にもかかりません	地図の配信なし 市町村の内水ハザードマップで確かめてください 低位地帯(参考・地形から見た目安)にもかかりません
土砂災害			
土砂災害(警戒区域・特別警戒区域)	区域の指定なし	区域の指定なし	 特別警戒区域(急傾斜地の崩壊)
海からの浸水			
津波(浸水想定)	浸水の想定なし	浸水の想定なし	浸水の想定なし
高潮(浸水想定区域)	浸水の想定なし	浸水の想定なし	浸水の想定なし
道路			
近くの冠水注意箇所(500m以内)	登録している箇所はありません	浸水常襲道路(中新田・永池川の西側) 浸水しやすい道路・約460m・位置は目安	登録している箇所はありません

対策の目安

この拠点で確かめること（編集部
の提案）

- 県の想定では、大和市の断水の解消まで大正型関東地震で29日、都心南部直下地震で9日。水とトイレの備蓄と給水の受け方の日数の目安にする（神奈川県「地震被害想定調査報告書（令和7年3月）」資料1 市区町村別の被害 p.58～61）
- この市町村の内水の地図は配信されていない。地形から見ると、周辺より低く水がたまりやすい低位地帯（参考・最大浸水深 約3.1m）にかかる。市町村の内水ハザードマップで区域と深さを確かめる
- 今後30年に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率が26%以上（J-SHISの地図のいちばん上の区分）。建物の耐震性と、棚・設備の固定を確かめる

- 浸水の想定（洪水：0.5～3m）がある。出入口の止水の高さと、設備・在庫・書類・サーバーを置く高さを、この深さを前提に決める
- 0.5m以上の浸水が続く時間は12時間未満（想定最大規模）。その間は屋外への避難が難しく孤立するおそれがある前提で、社内にとどまる人数と備蓄、代わりの場所と取引先への連絡の順番を決める
- 県の想定では、海老名市の断水の解消まで大正型関東地震で31日、都心南部直下地震で9日。水とトイレの備蓄と給水の受け方の日数の目安にする（神奈川県「地震被害想定調査報告書（令和7年3月）」資料1 市区町村別の被害 p.58～61）
- 今後30年に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率が26%以上（J-SHISの地図のいちばん上の区分）。建物の耐震性と、棚・設備の固定を確かめる
- 500m以内に冠水注意箇所が1か所ある。通勤・配送の経路にかからないか確かめ、回避ルートを決めておく

- 土砂災害の区域にかかる。大雨の警戒レベルが上がったときに、従業員を早めに帰す・近づかない基準を決める
- 県の想定では、大和市の断水の解消まで大正型関東地震で29日、都心南部直下地震で9日。水とトイレの備蓄と給水の受け方の日数の目安にする（神奈川県「地震被害想定調査報告書（令和7年3月）」資料1 市区町村別の被害 p.58～61）
- 今後30年に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率が26%以上（J-SHISの地図のいちばん上の区分）。建物の耐震性と、棚・設備の固定を確かめる

確かめる先

市区町村のハザードマップ

大和市（洪水）
大和市（内水・土砂災害）

海老名市（洪水・内水・土砂災害）
海老名市（揺れやすさ・震度被害・液状化）

大和市（洪水）
大和市（内水・土砂災害）

- 色は、黄が「注意が必要」、赤が「特に注意が必要」の目安です。色がなくても、災害が起きないということではありません。
- 地震の確率は、J-SHIS の確率論的地震動予測地図（2024年版・平均ケース・すべての地震）の値です。震度6弱以上の確率は県内の多くの地点で高いため、色の帯は付けていません。震度6強以上は、J-SHIS の地図のいちばん上の区分（26%以上）のときに黄の帯を付けています。
- 洪水は、想定最大規模のほかに、計画規模（比較的発生頻度の高い雨）の浸水、0.5m以上の浸水が続く時間（浸水深が0.5mに達してから下回るまで）、家屋倒壊等氾濫想定区域（氾濫流・河岸侵食）を、ハザードマップポータルサイトの地図から読み取っています。浸水が始まるまでの時間は、どこが決壊するかで大きく違うため載せていません。近くの決壊地点を[浸水ナビ](#)で選んで確かめてください。登録したどの拠点にも値がない項目は、表に出していません。
- 浸水の深さと土砂災害の区域は、地図の色から当サイトが読み取った目安です。範囲の境目にある拠点は、市区町村のハザードマップで確かめてください。
- 内水（下水道・水路があふれる浸水）は、ハザードマップポータルサイトに地図が配信されている横須賀市（一部の地域）・平塚市・綾瀬市はその地図から、川崎市は市のオープンデータ（内水ハザードマップ（浸水想定区域）、CC BY 4.0）から読み取っています。そのほかの市町村は「地図の配信なし」とし、国土数値情報の低位地帯（周辺より土地が低く凹んでいる地域。地形から見た参考で、公式の内水の想定とは別のもの）にかかるかを添えています。市町村の内水ハザードマップで確かめてください。低位地帯：この地図の作成にあたっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の基盤地図情報（数値標高モデル）を使用しました。
- 高潮は、浸水の深さをハザードマップポータルサイトの地図から、0.5m以上の浸水が続く時間と家屋倒壊等氾濫想定区域（氾濫流・越波）を神奈川県の「高潮浸水想定等のGISデータ」（CC BY）から読み取っています。県は、このデータの形状は概略で、正式な区域は県の高潮浸水想定区域図で確かめるよう注記しています。
- 冠水注意箇所（アンダーパスなど）は、国（関東地方整備局）の一覧と、県内すべての市町村の資料を突き合わせて、当サイトで位置を確かめた箇所です（箇所のない市町村もあります）。通勤・配送の経路にあるかも確かめてください。
- 「対策の目安」は、上の結果と県の地震被害想定（令和7年）の断水の日数をもとに、確かめることを編集部が並べたものです。

出典：「ハザードマップポータルサイト」（<https://disaportal.gsi.go.jp/>）の配信タイル（2026.09.26に利用）、防災科学技術研究所「[J-SHIS 地震ハザードステーション](#)」（確率論的地震動予測地図 2024年版・平均ケース、表層地盤）、国土地理院「[浸水ナビ](#)」をもとに当サイトが作成。背景地図：[OpenFreeMap](#) © [OpenMapTiles](#)、地図データ © [OpenStreetMap contributors](#)。地点の区分は、タイルの色から当サイトが読み取ったもので、国や自治体の判定ではありません。不動産取引の重要事項説明には使えません。